稲作農家　各位

山武稲作情報　第１報

（2026年5月25日発行）

山武農業事務所　改良普及課
TEL：0475-54-0226
FAX：0475-52-7914

山武地域の生育状況

３月下旬から気温が例年以上に高く推移し、苗の病気や徒長が見られました。移植については、根が活着するまでの間に風による植え傷みが見られました。特に4月下旬は平年よりも気温が低く推移したため、活着に日数が必要になりました。

5月からは、気温が高く日照も十分にあったため、分げつが増え順調に生育しています。しかし、気温の上昇と共にスクミリンゴガイの活動も活発となり、水位が深くなったほ場では食害も見られています。引き続き、浅水管理により茎数の確保と食害防止に努めましょう。

今年の育苗を振り返って

今年の育苗期は、**カビや細菌による病害の発生、苗の徒長、根張り不良**が多く見られました。育苗期間を通じて高温傾向にありましたが、気温が急激に低くなる日もあり、寒暖差が激しい状況でした。また、定期的な降雨により多湿になりやすかったことも障害の発生に影響したと考えられます。今年の気象や管理方法を振り返り、来年の育苗管理に生かしましょう。

平年より日平均気温が高い傾向でしたが、寒暖差が激しい期間でした。そのため、カビや細菌病など様々な病害の発生が見られました。

育苗期間を通じて気温が高く推移したため、苗が徒長する傾向にありました。苗の生育が早く進み、老化苗が移植されたほ場も散見されました。

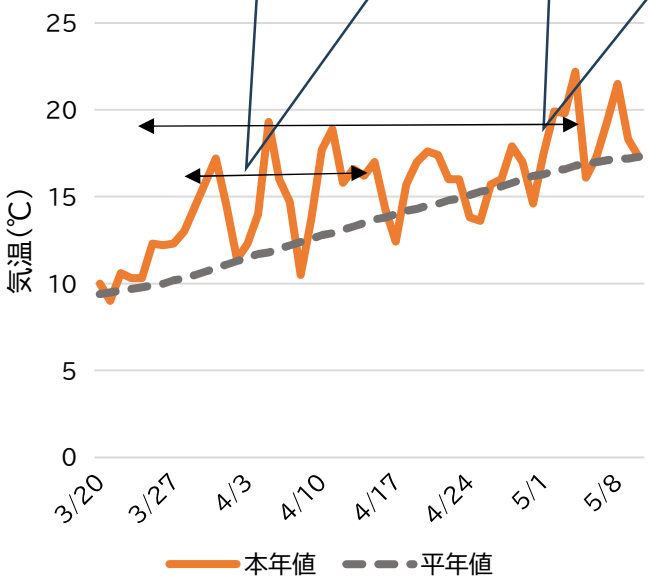


図1　日平均気温の推移（アメダス、横芝光）

日照不足の日が多く、床土が乾きにくい条件でした。また、周期的に最低気温が10℃を下回る期間もあり、ムレ苗や根張り不良になりやすい環境でした。

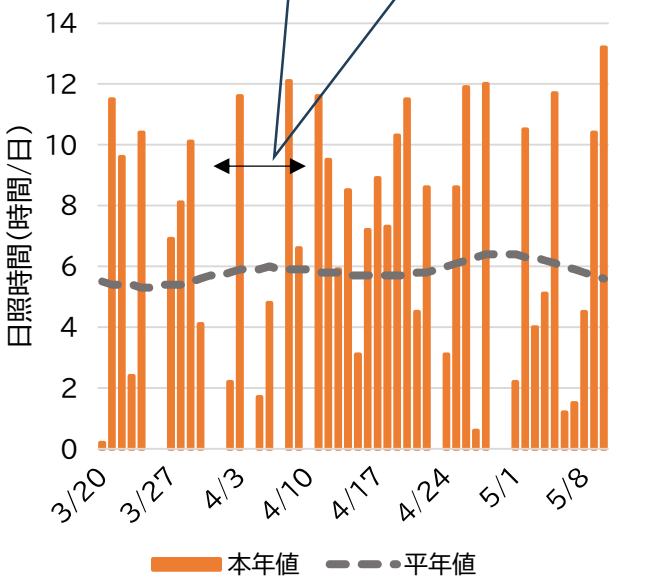


図2　日照時間の推移（アメダス、横芝光）



写真1　もみ枯れ細菌病による立枯れ症状



写真2　徒長した苗

健苗への第１歩は水管理から！

　春先は天候が不安定になりやすく、日によってハウス内の温度は大きく変化します。これに過湿条件が加わると、カビや細菌などによる病気の発生を助長するだけでなく、根張りを悪くし、移植後の活着遅れを引き起こすなど、その後の生育に大きな影響を与えます。管理によって過湿状態を作ることが無いよう、生育ステージに応じた適切なかん水を心掛けましょう。

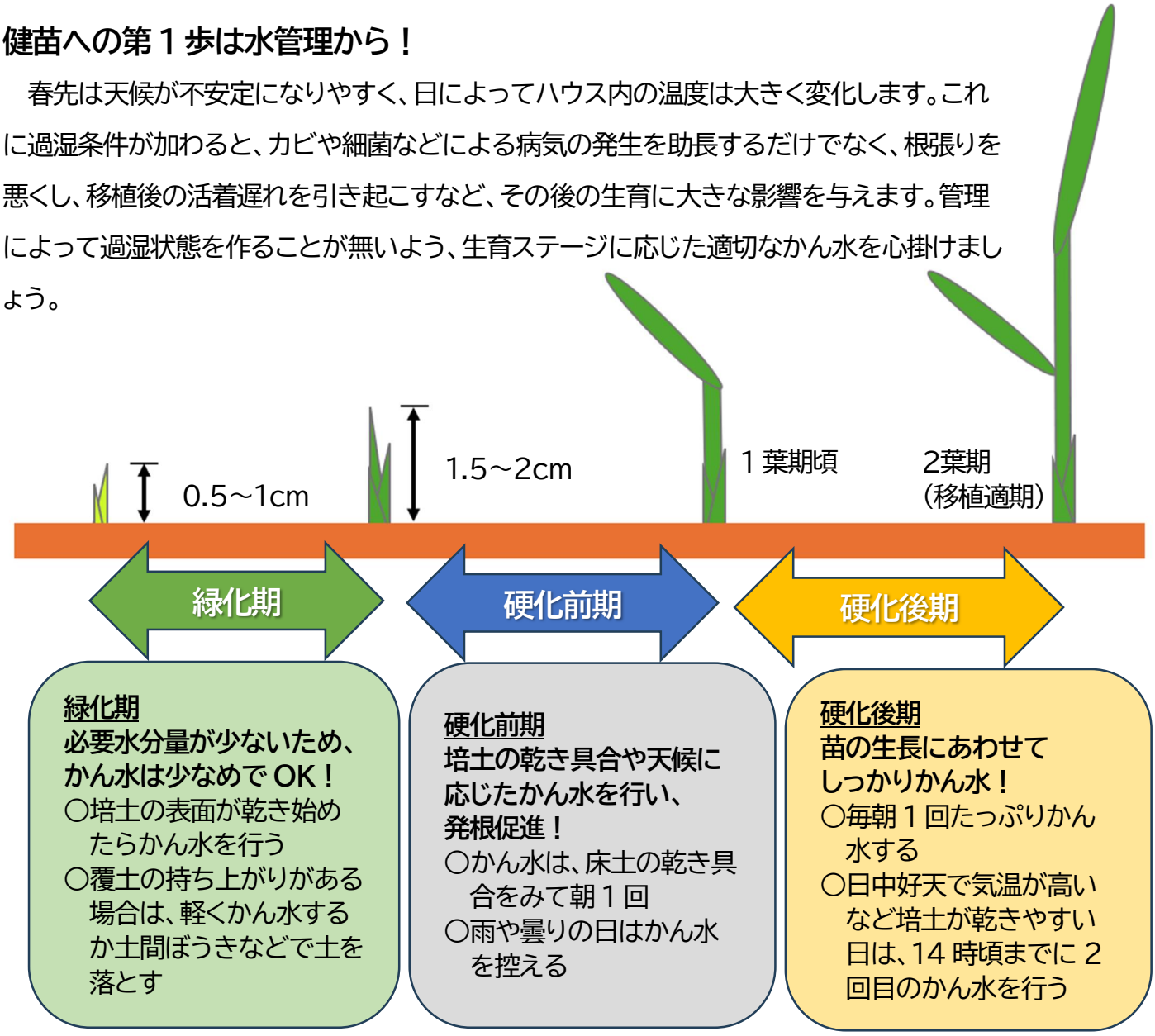


図3　イネの生育ステージに応じた水管理

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生状況

山武地域では、4 月上旬からスクミリンゴガイの活動開始が確認されました。特に、4 月27日と 5 月 1 日の降雨で増水したほ場では食害が見られました。苗が 5 葉期以降になると、食害を受けづらくなります。それまでの間は、降雨による増水に注意しながら浅水管理に努めましょう。また、貝の発生量が多いほ場は農薬を併用し、食害を防ぎましょう。



写真3 代かき後の水田のジャンボタニシの様子(4 月中旬)

藻類の増加に要注意！―今こそ見直そう、水田の除草管理

5 月以降、日平均気温の上昇や降雨に伴う水位の上昇により、藻類の発生が多くなっています。地温の上昇阻害や苗に絡んで引き倒すなど、藻類による被害程度は生育初期ほど大きくなります。藻類の発生量が多い場合は、田干しや藻をすくい取るなど水面の藻類を減らしてから、適用のある除草剤で防除を行いましょう。また、次作以降は、発生予防効果がある初期除草剤や一発除草剤への切り替えも検討しましょう。



写真 4 藻類が苗に絡む様子

病害虫発生予察情報(令和 8 年 5 月 15 日現在)

病害虫名	予想 発生量	防除上の注意事項
いもち病 (葉いもち)	並	補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
ばか苗病	やや多	ホームページに掲載の情報を参照。「イネばか苗病ゼロに御協力願います！！」 (https://www.pref.chiba.lg. jp/seisan/farmer.html)
スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)	やや多	ほ場や用水路に貝が生息している場合は、稲が5葉期に達するまでは浅水管理 (4cm 以下)や薬剤防除を行う。
イネミズゾウムシ	やや少	移植 10 日後までに成虫が2～3株あたり 1 頭以上確認された時には薬剤防除する。
イネクロカメムシ	やや少	ほ場をよく確認し、発生の多い場合には、薬剤防除する。

＊ 詳細は病害虫防除課のホームページをご覧ください。

病害虫発生予察情報:https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html

生育調査結果(5月20日現在)

＊本年値の( )内は平年値(過去 10 年)との比率を示しています。

コシヒカリ

場所･移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢
東金市	本年	24(86%)	136.1(128%)	5.1(95%)
4/28 移植	前年	26	100.8	5.9

ふさこがね

場所･移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢
山武市	本年	21(91%)	102.5(107%)	3.2(115%)
5/11 移植	前年	23	105.8	5.4

ふさおとめ

場所･移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢
山武市	本年	20(93%)	105.3(97%)	5.1(91%)
5/4 移植	前年	18	71.6	5.6

幼穂形成期予測(5月20 日現在)*

移植日	品種				
	コシヒカリ	ふさこがね	ふさおとめ	粒すけ	アキヒカリ
4/20	6/21	6/13	6/12	6/20	6/10
5/1	6/26	6/19	6/17	6/27	6/16
5/15	7/5	6/28	6/26	7/6	6/25

＊幼穂形成期とは幼穂が 1～2mm になる時期のことを指しています。

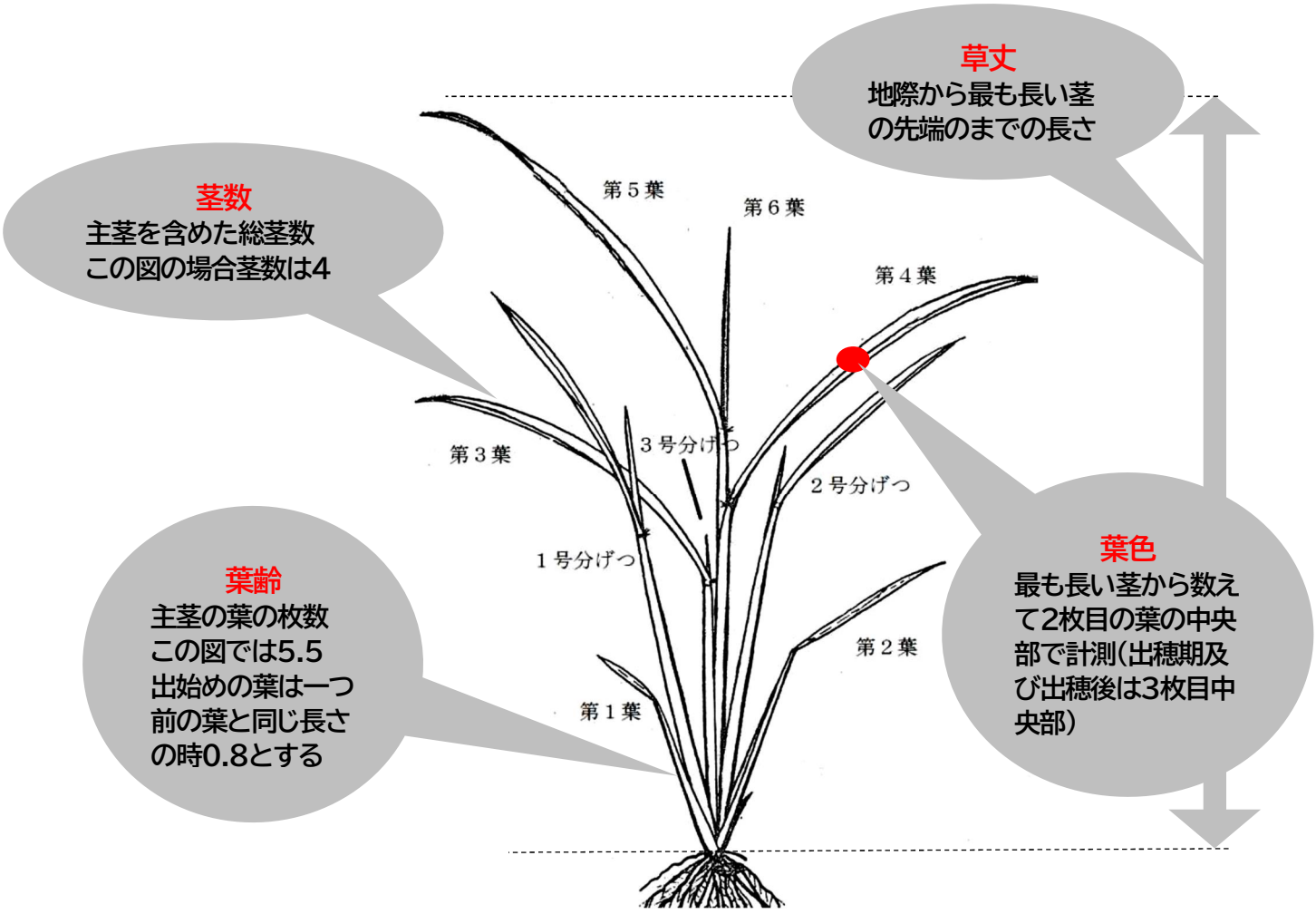
＊予測日は水稲生育予測システム「でるた ™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

千葉県水稲・畑地園芸研究所　成東育成地による生育調査結果(5月20日現在)
＊本年値の(　)内は平年値(過去10年)との差を示しています。

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢
コシヒカリ	本年	25(91%)	153.1(79%)	6.3(107%)
4/24移植	前年	27	107.9	5.4
ふさこがね	本年	21(87%)	174.7(81%)	6.8(108%)
4/24移植	前年	22	122.8	6.4
ふさおとめ	本年	25(98%)	160.1(71%)	7.2(109%)
4/24移植	前年	24	139.8	6.2
粒すけ	本年	23(94%)	166.6(82%)	7.2(113%)
4/24移植	前年	22	124.6	6.7
粒すけ	本年	15(100%)	69.7(101%)	3.4(106%)
5/15移植	前年	15	58.1	3.8

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



次回の発行は6月4日を予定しています。